

継続型高大連携カリキュラムでの社会科学カリキュラム

安田伸一^{*1}・吉田友紀^{*2}

Email: yasudas@cc.saga-u.ac.jp

*1: 佐賀大学経済学部経営学科

*2: 佐賀大学経済学部経済学科

◎Key Words 高大連携, データサイエンス, エクセル

1. はじめに

継続型高大連携カリキュラムとは、佐賀大学の体系的で継続的な高校生向けの教育プログラムで、佐賀大学では「とびらプロジェクト⁽¹⁾」と呼ぶ。

本稿では、とびらプロジェクトのうち経済学などの社会科学の「社会へのとびら」から 2023 年度から 2025 年度に行われた内容を報告する。

2. とびらプロジェクト

佐賀大学では継続・育成型高大連携カリキュラムを「とびらプロジェクト」と呼ぶ。これは、佐賀県内の高校生を対象として 1 年次から 3 年次までの学期ごとに 7 回の体系的な授業を継続的に受講させる教育プログラムである。1 回完結の高大連携カリキュラムと並行しておこなうことにより、さまざまな意識の高校生に対して専門的な分野への興味関心の喚起と主体的な進路選択をうながすことを目的としている。

2014 年度に教職課程の分野で開始され、現在は佐賀大学のすべての学部がプログラムを開講する（表 1）。

表 1 佐賀大学とびらプロジェクト

名称	分野	担当
教師へのとびら	教職課程	教育学部
科学へのとびら	自然科学	理工学部と農学部
社会へのとびら	社会科学	経済学部
医療人へのとびら	医師看護師養成課程	医学部
アートへのとびら	芸術	芸術地域デザイン学部

3. 社会科学カリキュラムの設計

3.1 2023 年度「社会へのとびら」の目標

とびらプロジェクトでは、それぞれの専門分野の継続的な学びとともに、大学におけるアクティブ・ラーニングの経験も重要な要素である。そこで次の目標を設定した：

- 社会科学の専門性
社会科学の手法による論理的な考察
エクセルを使った統計データの加工と分析
アンケート調査の運用
- アクティブ・ラーニング
インターネットからの統計データの入手
アンケート調査による統計データの入手
考察のプレゼンテーションと討論

これにより、高校生は社会科学的手法による読みとる

力・伝える力・議論する力を修得し、あわせて社会科学のおもしろさを体験することで、専門性への興味関心の喚起という目的の実現をはかった。

3.2 カリキュラム構成

社会へのとびらは高校行事のない日曜日午後の 3 時間で実施する。表 2 にカリキュラムを示す。

表 2 社会へのとびらカリキュラム

回	時期	学習と実習の内容
1	1 年生 1 学期	グラフから傾向を読む エクセルの式とグラフ作成
2	1 年生 2 学期	データ間の関連を見つける 度数分布 2 軸グラフ
3	1 年生 3 学期	相関関係と因果関係 散布図 決定係数
4	2 年生 1 学期	アンケートの分析手法 目的の質問と属性の質問 単純集計 クロス集計
5	2 年生 2 学期	アンケート作成 オンライン・アンケート
6	2 年生 3 学期	アンケート分析 グループごとに結果分析
7	3 年生 1 学期	アンケート調査のプレゼン 修了式

5 回目と 6 回目の受講生による独自のアンケート実習を目標としてカリキュラムを設計した。1 回目から 4 回目がアンケートの分析に必要な内容、4 回目と 5 回目がアンケートの作成に必要な内容である。

5 回目でグループごとの調査内容を決め、独自のオンライン・アンケートを作成する。5 回目から 6 回目までの 5 ヶ月半に分担して回答を集め、6 回目でグループごとにアンケート結果を分析し、7 回目で一人ずつプレゼンする。

4. 社会へのとびら の実施

4.1 1 回目の実施結果：2023 年 6 月 11 日

- 内容：データ入りエクセル・ファイルの配布、社会・人口統計体系⁽²⁾からデータ取得、計算式、棒グラフ作成。グループ別に、データの特徴をプレゼン
- 意見・感想：実数と密度と見方を変えた比較からの学び、他の人との気づきの違いの学び、佐賀県の特徴の学び、エクセルの利用方法の学び

4.2 2 回目の実施結果：2023 年 10 月 1 日

- 内容：2 軸グラフで相関の有無を見る。グループ別に社会・人口統計体系から利用できる統計データを採り、グラフ化して見つけた特徴をプレゼンする。
- 意見・感想：データ間の関連性の発見のむずかしさ、社会・人口統計体系の存在、グラフの作り方

4.3 3 回目の実施結果：2024 年 3 月 24 日

- 内容：散布図と決定係数
- 意見・感想：散布図や相関の学び、散布図の作り方

4.4 4 回目の実施結果：2024 年 6 月 9 日

- 内容：アンケート調査の基礎、全数調査・標本調査、質問、属性に関する質問、単純集計とクロス集計、オンライン・アンケート実習（回答、結果のダウンロード、分析）
- 意見・感想：アンケート分析の学び、クロス集計の学び、ピボットテーブルの使い方

4.5 5 回目の実施結果：2024 年 10 月 6 日

- 内容：調査内容の決定、質問の作り方、集計しやすい回答・集計しにくい回答、標本調査なので母集団の属性を調査すること
- 独自アンケート：参加者 15 名を 2 グループに分けた。1 班は部活動を、2 班は高校生活をアンケートに選んだ。質問内容を表 3 に示す。
- 意見・感想：（授業後アンケートがありません）

表 3 アンケート内容

班	表題	主な質問
1	部活動に関するアンケート	性別 学年 部活種別 部活名 活動時間（平日・休日） 気持ち（楽しい やりがい 厳しい 辛い） 顧問 人間関係 設備 実績（全国大会～地方大会、優勝～ベスト 16）
2	高校生活におけるアンケート調査	性別 学年 文理 部活種別 好きな教科 好きな物語ジャンル 流行敏感度 恋人の有無 交際期間 告白した・された 片思い 恋愛への関心

4.6 6 回目の実施結果：2025 年 3 月 23 日

- 内容：班ごとのアンケート結果の配布、単純集計・クロス集計、プレゼンテーション
- 意見・感想：母集団の男女比の重要性、自分の着目点での分析の学び、クロス集計でわかることの学び

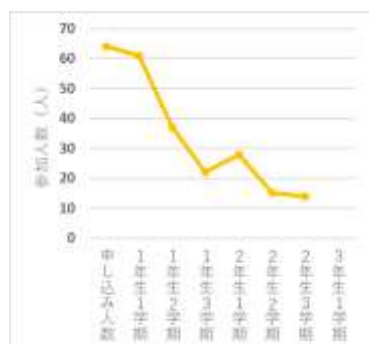


図 1 参加人数

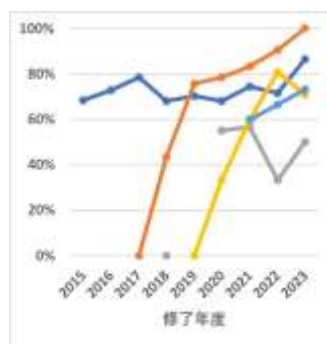


図 2 関連分野への進学

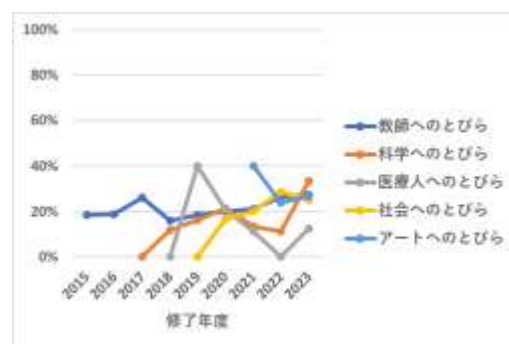


図 3 本学への進学

4.7 7 回目の実施予定：2025 年 7 月 13 日

本稿締切後の 7 月 13 日に高校生のプレゼンテーションがある。高校生の分析結果は分科会で示す。

4.8 運営上の留意事項

- 高校生のパソコン持参
佐賀県では県立高校でパソコン貸与をおこなっているため、問題とならなかった³⁾。
- LMS
佐賀県の貸与パソコンはアプリケーションのインストールが制限され、LMS が利用できなかった。受講者専用ページでファイル共有はできるが、授業時間外の教員をまじえた双方向学習ができなかった。
- 離脱者の多さ
当初申し込み人数 64 名に対して 6 回目の参加者は 14 名である。この傾向は別の年度や別の分野でも当てはまり、継続型高大連携のニーズがニッチなものである可能性を示している（図 1）。
- 進学者の少なさ
図 2、図 3 に関連分野と本学への進学率を示す。専門的な分野への進学率は 30%～90% を示し、専門分野に対する高校生の関心と進学先に相関がある。一方、本学への進学は 0%～30% 程度であり、専門分野から離れた大学固有の魅力発信には必ずしもつながっていない。

5. おわりに

単なるエクセルの使い方ではなく、アンケート調査を題材として調査内容の決定から質問の選定、アンケート分析までを 6 回の授業で実施できた。特に 6 回目の授業では、結果を予想して準備した質問項目（例：好きな物語ジャンルと恋愛への関心の相関）だけでなく、受講生が独自の着目点でクロス集計をはじめするなど積極的なアクティブ・ラーニングを実践することもできた。7 回目の参加者によるプレゼンテーションの内容が期待される。

一方、参加者の大幅な減少や本学進学者の少なさは、本事業の再検討のきっかけとなるかもしれない。

参考文献

- (1) 佐賀大学アドミッションセンター：“とびらプロジェクト”，[https://www.sao.saga-u.ac.jp/admission_center/tobira/\(2025-06-23\)](https://www.sao.saga-u.ac.jp/admission_center/tobira/(2025-06-23))
- (2) 総務省統計局：“社会・人口統計体系”，[https://www.e-stat.go.jp/\(2025-06-23\)](https://www.e-stat.go.jp/(2025-06-23))
- (3) 佐賀県：“学習用パソコンの導入方法の変更について”，[https://www.pref.saga.lg.jp/\(2018-03-16\),\(2025-06-23\)](https://www.pref.saga.lg.jp/(2018-03-16),(2025-06-23))